

○令和5年度 国立大雪青少年交流の家体験活動普及啓発事業

「たびうさぎファミリー～はじめてのキャンプ編～」(R5. 7. 1 (土)～2 (日))



◆目的

家族が外遊びの楽しさと意義を体感するとともに、家族の交流の機会とします。

◆参加実績 (定員 10 家族 30 名程度)

10 家族 35 名



◆プログラム

① テントを立ててみよう・・・(90分)

悪天候のため、全日程を屋内で行った。

職員とボランティア、各家族で簡単に自己紹介をした後、テントの組み立て方を職員とボランティアで実演し、家族ごとにテントの組み立てを行った。早く組立て終わった家族は、中に銀マットや寝袋を敷いて休んだり、テントの周りで遊んだりしていた。

② 夕食作り・・・(210分)

各家族でカレー作りを行った。職員が用意した炭火で野菜やお肉を焼くことができるようにすることや、ごはんはレトルトのものを使うことで、キャンプ未経験者でもキャンプに行った時の食事作りをイメージできるようにした。準備から片付けまで家族単位で行うことで、家族の交流を図ることができるようにした。

③ たき火タイム・・・(90分)

19:30～21:00 までの時間を自由時間として、自由に遊んだりお風呂に入ったりできる時間にした。吹抜けで職員がたき火を起し、マシュマロを焼いたり温かい飲み物を飲んだりできるようにして、キャンプの夜を楽しく過ごすことができるようにした。

④ 朝食作り・・・(60分)

キャンプで簡単に作ることができる朝ごはんとして、アニメ映画で見たことのあるメニューをつかった。夕食と同様に準備から片付けまで家族単位で行うことで、家族の交流を図ることができるようにした。

⑤ 片付け・・・(240分)

片付け方のお手本を見せて、各家族で自分たちの使ったテントを片付けた。片付け終了後、アンケートや楽しかったことを記入していただいた。



◆事業運営・企画のポイント

○全くキャンプをやったことがない人が、「自分たちもやってみよう」と思えるようにプログラムを組立てた。実施時期を7月頭にする事で、夏休みのキャンプ体験のきっかけになるようにした。

○基本的に家族単位での活動とすることで、家族内の交流が活発になるようにした。

○たき火タイムや各活動のスキマ時間などで家族同士の交流も図ることができるようにした。

○悪天候ではあったが、屋内でテントを張り、調理もガスコンロを使用したため、キャンプ体験の1歩目として適していた。



◆参加者の声

□建物の中でテントを張れたので、キャンプ気分を味わえた。

□3、4歳と小さい子供たちにキャンプ体験をさせることができて良かったです。

□子どもを連れてのはじめてのキャンプ、自分たちだけで行くのは少しドキドキで踏ん切りがつかなかったので、今回の企画はとてもありがたかったです。あいにくのお天気でしたが、初キャンプが屋内だったのはいい意味でスモールステップの貴重な体験になりました。

□食事作りも子どもを料理長にしてたくさん考えさせながらできたのはとても良かったです。「自分で作ったカレーはおいしいね」とバクバク食べていました。

□普段一緒に活動する機会が少ないため、有意義な2日間でした。



◆事業の成果

① 参加した保護者や子どもたちに、屋外で遊ぶことを通して外遊びの重要性と楽しさを広めることができた。

② 家族内の交流を深める機会を提供することができた。

